

アライアンス・パートナーシップ戦略

ー広域連携戦略ー

TSUBASAアライアンス

2015年に当行、千葉銀行、第四銀行（現：第四北越銀行）の3行で発足したTSUBASAアライアンス。いまでは各地域のトップバンク10行が参加する地銀最大のアライアンスに発展し、参加行の総資産合計はメガバンクに次ぐ規模にまで拡大しました。

システムの共同化に向けた枠組みから始まった連携の幅も年々拡大し、フィンテックや事務・システムの共同化、相続関連業務、国際業務、グループ会社の活用など広範囲に及んでいます。

知見を結集しながら参加行の独自性を尊重し、スケールメリットを活かすことができるこの連携の枠組みによって、当行単独では実現できないトップラインの増強やコスト削減、業務の高度化を実現しています。

● アライアンス参加行本店・店舗所在地



アライアンス参加行 10行		
資産規模の合計		
総資産額	預金	貸出金
96兆円	76兆円	53兆円

● 主な取組み

トップライン増強	協調融資	シンジケートローンなどの大型案件を共同組成・相互招聘
	相続関連業務	遺言信託などの相続関連業務で業務提携し、知見やノウハウを共有
コスト削減	基幹系システム共同化	当行、千葉銀行、第四北越銀行で基幹系システムを共同化済 2023年1月には北洋銀行、2024年1月には東邦銀行も移行予定
	TSUBASA FinTech共通基盤	日本IBMとTSUBASAアライアンス参加行6行で設立したT&Iイノベーションセンター(株)でオープンAPI ^{*1} の開発・運用・保守を共同化
	サブシステム共同化	サブシステムを共同購入・利用し、コストの低減と事務の効率化を実現
業務の高度化	AML業務 ^{*2} の高度化	国際的な要請の高まるマネー・ローンダリング対策の高度化を共同検討

※1 オープンAPI：外部事業者などが銀行システムへ安全に接続する仕組み

※2 AML業務：アンチ・マネー・ローンダリング(Anti-money laundering)の略。マネー・ローンダリング防止対策に関する業務

TOPICS (株)オンアドの設立

2022年1月に当行、千葉銀行、第四北越銀行および野村ホールディングスの4社で、オンラインでのアドバイスに特化した新しい金融コンサルティングサービスを提供する「株式会社オンアド」を設立しました。当社では金融商品の販売をおこなわず、生涯収支を改善させるアクションプランの作成のサポートをすべてオンラインで提供します。

TSUBASAアライアンスでの連携により、本事業のような既存のビジネスの枠組みを超えた新たな事業やサービスを、外部事業者との連携により開発・提供することも可能となっています。



- 中立性
- アドバイス特化
- オンライン完結

岡山大学との包括協定「おかやま未来共創アライアンス」

当行は、2021年2月に岡山大学と地域におけるお互いの情報およびノウハウを共有し、地域と連携しながらSDGsを達成していくことで、地域の発展に貢献し未来を共創していくことを目的とする「地方創生SDGsによる未来共創に関する協定書～おかやま未来共創アライアンス～」を締結し、持続可能な地域経済の発展に取り組んでおります。

地方創生SDGsによる未来共創に関する協定書 ～おかやま未来共創アライアンス～



● 主な取組み

オープンイノベーションの活性化	当行から若手人材を1名出向させ、オープンイノベーションの活性化に向けたマッチングスキーム構築に着手
大学発スタートアップ・ベンチャー企業支援	岡山大学内関係者向けに、当行のサポートメニューを紹介する説明会を実施
DX関連の共同研究マッチング	学生服メーカーのコロナ禍における非対面での学生服の採寸・フィッティングという課題に対し、当行が岡山大学の最先端のAI研究を紹介したことで、共同研究が実現

おかやま共創パートナーシップ

当行は、2019年10月31日にトマト銀行・日本政策金融公庫と「地方創生に関する連携協定書～おかやま共創パートナーシップ」を締結(2020年4月1日に岡山県信用保証協会が参加)し、各機関が保有する知見を有効に活用し、岡山県内を中心とした地域経済の発展に取り組んでおります。



● 主な取組み

SDGs共同プロジェクトの実施	地域のフードロスの課題解決に向けた取組強化として、「地域循環型の赤磐産ブドウのウエットティッシュ [*] 」を購入し、お客さま向けの頒布品として採用
第2回おかやま共創アグリセミナーの実施	農産物のブランディング、輸出、6次産業化、SDGsの取組み、さらにはコロナ禍の農業現場などについて事例を用いた講演を実施
令和4年度診療報酬改定WEBセミナーの実施	令和4年度の診療報酬改定について、診療報酬改定の具体的なポイントや医療業界の今後の動向などについてセミナーを実施

※ 地域循環型の赤磐産ブドウのウエットティッシュ：従来、廃棄されていた未利用のブドウを資源と捉え、その原材料をもとに抽出されたエタノールにより、商品化された天然由来成分99%のウエットティッシュ

